



令和6年度 TRセンター運営戦略連絡会 報告

担当理事

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター
水野 正明

連絡会世話人

岡山大学 学長
那須 保友

岡山大学病院 新医療研究開発センター
櫻井 淳



TRセンター運営戦略連絡会

□連絡会の趣旨・位置づけ

- ◆TRセンターの自立化と人材のサステナビリティ確立を目指し、拠点間の取組を共有する。
- ◆課題の解決に向けた拠点間の情報交換
- ◆ARO協議会、AMED等へのセンター運営に関わる意見交換

□メンバー（22機関） 令和6年9月現在

- ◆北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸医療産業都市推進機構、九州大、群馬大、千葉大、国立がん研究センター、慶應大、名古屋医療センター、筑波大、長崎大、がん研究会有明病院、順天堂大、広島大、神戸大、東京医科歯科大、**国立国際医療研究センター**、岡山大



TRセンター運営戦略連絡会（直近5回）

	開催日	議 題
第10回	R3年8月4日 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none">拠点の運営に必要な財政収支の見通し及び公的資金以外の外部資金獲得に向けた特徴的な取り組み
第11回	R4年8月30日 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none">公的資金以外の外部資金獲得に向けた特徴的な取り組み企業出資型臨床研究（受託研究としての特定臨床研究・医師主導治験）や共同研究における間接経費に関する取扱いについての特徴的な取り組み
第12回	R4年9月15日 (柏市)	<ul style="list-style-type: none">拠点運営全般に関する意見交換拠点運営ビジョン・組織ガバナンス若手人材育成、研究支援部門の採算性
第13回	R5年8月24日 (東京)	<ul style="list-style-type: none">昨今のAROを取り巻く環境変化とこれからの組織運営ビジョン
第14回	R6年9月19日 (神戸市)	<ul style="list-style-type: none">AROと他部門・他組織・他大学との連携による新しい組織体制の在り方



第14回TRセンター運営戦略連絡会

「AROと他部門・他組織・他大学との連携による新しい組織体制の在り方」

◆組織内連携

- ✓ ワクチン拠点、J-PEAKS申請、文科省事業等での採択により、研究マネジメント部門への期待が高まっている。（千葉大・広島大、岡山大）
- ✓ 大学内での他部門、他組織との連携（医学部と病院の連携）をしていくのが難しい
- ✓ 東大では他組織として産学連携、TLOなどの研究者支援が手厚くできている。
- ✓ 法人の下に、組織対組織の大型プロジェクトを遂行する新機構を設立した

◆組織外の別組織・別機関との連携：

- ✓ MARC、関東甲信越アライアンス、神戸大学関連病院アライアンス、従来の研究ネットワークを活用
- ✓ 事業間の連携が加速している（慶応大ー順天堂大学、筑波大Research Studio）
- ✓ 自治体との連携（神戸市、神戸市民病院）
- ✓ グローバル企業治験の強化
- ✓ MIT-ILP (industrial liaison program) の活用
- ✓ STATION Ai（名古屋地区のオープンイノベーションプラットフォーム）
- ✓ 神戸大学イノベーション株式会社とのシーズ情報共有・定例会議
- ✓ 起業経営人材の人材プール



連絡会での拠点意見まとめ

- 連携に際して、相手側の見方、多方向からの見方を身に付けていく
 - ◆財源の安定性も、研究開発やセンター運営において重要なリスクマネジメント

- 多角経営的にならざるを得ない面はありながらも、ARO/TRセンターとしてのプライオリティは忘れず取り組んでいくこと

- シーズ開発をあきらめないで続けていく、再トライする
 - ◆公的資金に落選しても、他事業でトライする
 - ◆展示会等で、企業に対して1on1のシーズ紹介を何件も繰り返す。AROのプレゼンスを世界に示して、海外からも資金を獲得していくことが必要
 - ◆海外拠点へのAROマネジメント人材の派遣や、研究者の派遣を通じて、ローカルのレベルで海外とつなげていくことが重要



まとめ

- 年々、全学的なガバナンスの視点が拠点運営にはさらに必要になっている。加えて、アカデミアの本来の使命・プライオリティを忘れずにセンターを運営していくことが重要
- 医療系以外の他学部との連携が徐々に進み、各大学の事業の中にTRセンターを位置付けるものが増えてきた。
- TRセンターのプライオリティを高めるために、学内のみならず、グローバルな視点をもち運営していくことも必要。
- TRセンター運営戦略連絡会が、センター・大学の研究支援体制のサステナビリティにいかに関与していくかが課題。

- TR連絡会で「各拠点の成功事例を共有」
 - ◆大学の研究体制・ガバナンスにおけるTRセンターの位置づけ明確化
 - ◆民間の資金を経営に取り組む
 - ◆大学本部・事務への情報共有・成功事例の共有を行う。